

訂正要求書

2014.5.25付「産経新聞」の「歴史戦第2部 慰安婦問題の原点」～「日本だけが悪」周到な演出…平成4年「アジア連帯会議」の記事中の以下の記述につき、事実と異なる部分がありますので、速やかに貴紙紙面で訂正文を掲載された上で、当実行委員会への連絡をお願いします。

1. 3面写真に、

「平成4年8月、ソウル市内で開かれた「挺身隊問題アジア連帯会議」で舞台に立つ元慰安婦女性ら（館雅子氏提供）」とのキャプションがつけられていますが、この写真はバックに「問われる戦後補償 韓国遺族会 第一回口頭弁論」という文字が見えています。これは、「韓国太平洋戦争犠牲者遺族会」訴訟の第一回口頭弁論後の報告集会の写真ではないでしょうか。

確認の上、訂正を求めます。

2. 1面記事は、

この会議に参加した館は会場で迷い、ドアの開いていたある小さな部屋に足を踏み入れてしまった。

そこでは、韓国の伝統衣装、チマ・チョゴリを着た4～5人の元慰安婦女性が1人ずつ立って、活動家とみられる日本人女性や韓国人女性の言葉を「オウム返し」に繰り返していた。

「元慰安婦に（シナリオ通りに）言わせるのは大変なのよね」

日本からの参加者がこう話すのを耳にしていた館は、あの部屋で見たのは「元慰安婦女性たちの振り付けだ」と確信した。

としていますが、第一回アジア連帯会議（当時の名称は「挺身隊問題アジア連帯会議」）当日、「慰安婦」被害者は全員普段着で参加しており、白いチマ・チョゴリを着て参加した人は一人もいません。必要であれば写真を提示することもできます。

従って、上記についても、内容全体の訂正または取消を求めます。

3. 1面記事は、

日本からは「日本軍『慰安婦』問題行動ネットワーク」……が参加

としていますが、92年当時、このような名称の団体は存在していませんでした。

これについても訂正または取消を求めます。

4. 1面記事は、

続いて、インドに住むタイ人女性が「日本軍さえたたけばいいのか。インドに来た英国兵はもっと悪いことをしたのに」と泣きながら訴えると、日本語の怒鳴り声が会場に響いた。

「黙りなさい。余計なことをいうな！」

館はこのときの様子を「日本だけが悪いというストーリーを作り上げていた」と述懐する。

としていますが、

当日、タイ在住のタイ人女性が1名参加していますが、インドに住むタイ人女性が参加した事実はありません。また、引用のような発言もなく、日本語の怒鳴り声が会場に響いた事実もありません。

これについても訂正または取消を求めます。

5. 1面記事は、

「私たちは韓国の女性と違って、優しく従順なので日本の兵隊さんにかわいがってもらい、遠足にも一緒にいきました。だから韓国の強い姿勢とは違う」

台湾代表がこう主張し、韓国側が要求する個人補償を求めない考えを表明すると、激しいヤジが飛んだ。声を荒らげて怒る人、議長席に詰め寄る人などで会場は騒然となった。

としていますが、台湾の報告者は「台湾『慰安婦』に関する初の報告書」とのタイトルで報告し、その内容は「これらの女性のほとんどが物質的補償を望んでいる。しかし、補償を望んでいるとはいえ、期待してはいない。もしも、日本政府が韓国の「慰安婦」に補償するなら、台湾の女性たちも補償されなければならない。彼女たちは、他の「慰安婦」たちと同じ処遇を受けることを願っている。これらの女性のうち何人かは必ずしも物質的補償を受けなければならないとは思っていないが、彼女たちの健康状態が苦しくなれば、特別な支援を受けなければならないだろう。彼女たちが物質的な補償を望む理由は、まず健康上の理由、遺族のため、または現在の窮乏生活のためである。彼女たちの老後のために補償は必ず必要だ。このうち2名は特にたいへん怒っており、台湾政府が日本政府から補償を受け取るために支援することを望んでいる」というもので、記事とは全く逆の内容です。

従って会場が騒然となった事実もありません。

この点についても、訂正または取消を求めます。

なお、この要求書および貴紙の回答・対応につきましてはインターネット等を通して公開いたしますので、ご了承ください。

2014年8月6日

第12回アジア連帯会議実行委員会
日本軍「慰安婦」問題解決全国行動

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 AVACO ビル 2F
アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam) 気付

日本軍「慰安婦」問題解決全国行動

tel 070-1317-5677

fax: 03-3202-4634

e-mail: ianfu-kaiketsu@freeml.com